



第59号 (平成27年3月発行)
東海ノア協定事務局
(原子力機構・原子力科学研究所内)
TEL : 029-282-5801
E-mail : t-noah@jaea.go.jp
URL : <http://tnoah.jaea.go.jp/>

東海ノア通信第59号をお届けします。

東海ノア協定では、加盟事業所の皆様方との相互協力をもとに、積極的に協力活動を進めていきたいと考えています。東海ノア通信では、こうした日頃の協力活動をよりわかりやすく皆さまに紹介しています。

なお、東海ノア協定に基づく活動状況は、ホームページでも紹介しています。

アドレスは、<http://tnoah.jaea.go.jp/> です。

〔トピックス〕

☆活動状況

- 安全協力委員会の開催状況
- 活動推進幹事会の開催状況
- 安全教育に係る協力活動
- 情報等の交換に係る協力活動

☆加盟事業所からの事業所紹介

☆役員等の変更

東海 NOAH :

「東海」東海村、「N」那珂市、「O」大洗町、「A」旭村（現銚田市）、「H」ひたちなか市

☆活動状況

安全協力委員会の開催状況

○第32回安全協力委員会

〔開催日〕 平成27年3月18日（水）

〔開催場所〕 原子力機構 原子力科学研究所

〔議題〕

- (1) 第30回安全協力委員会議事録について
- (2) 平成26年度活動状況報告について
- (3) 平成27年度年間活動基本計画（案）について
- (4) 安全協力協定の読み替え及び安全協力協定運営要項の改訂について
- (5) 協定加盟事業所の近況について

第32回安全協力委員会では、議題（3）により平成27年度年間活動基本計画（案）についての審議がなされ、原案通りで承認されたことから、原子力事業所安全協力協定に基づく平成27年度の協力活動は、本基本計画に沿って進めていくこととなりました。

また、議題（4）により、安全協力協定における事業所名の変更については、今回は読替えで対応して改訂手続きは実施しないこと、並びに安全協力協定運営要項の改訂については、活動推進幹事会の提案通りに改訂することを承認しました。



第32回 安全協力委員会の様子

活動推進幹事会の開催状況

○第69回活動推進幹事会

〔開催日〕 平成27年3月5日（木）

〔開催場所〕 原子力機構 原子力科学研究所

〔議題〕

- (1) 第68回活動推進幹事会議事録について
- (2) 前回幹事会以降の活動状況について
 - ① 平成26年度 安全教育に係る協力活動について
 - ② 平成26年度 情報等の交換に係る協力活動について
- (3) 平成26年度活動状況報告（案）について
- (4) 平成27年度年間活動基本計画（案）について
- (5) 東海ノア通信第59号の発行について
- (6) その他

第69回活動推進幹事会では、議題（3）及び（4）により平成26年度活動状況報告（案）及び平成27年度年間活動基本計画（案）についての審議がなされ承認されたことから、平成27年3月に開催予定の第32回安全協力委員会において、平成26年度活動状況を報告するとともに平成27年度年間活動基本計画（案）について審議いただくこととなりました。



第69回 活動推進幹事会の様子

安全教育に係る協力活動

○安全教育研修会の開催

平成27年3月19日（木）、東海ノア協定に基づく平成26年度第2回安全教育研修が、日本原子力発電（株）東海総合研修センターを会場に、協定加盟4事業所から7名の参加と少数の参加で、開催することができました。

研修は、カリキュラムの一部を入れ替えましたが、ほぼ予定時間通りに進行しました。フルスコープシミュレータ建屋では、普通では見学することの出来ない東海第二発電所の中央制御室の実寸モデルを見学し、地震が発生したことによる警報パネルの発光、室内の消灯などを体験しました。また、当日は生憎の降雨でしたが、予定通りに放射線測定の実施では、傘を差しながら屋外環境サーベイも行われました。

研修後に実施したアンケートでは、実習のシミュレータ運転体験は専門的過ぎる、日程が短すぎるとのご意見もありましたが、概ね良好であったと評価しております。参加者の増員等を期待などのご意見もあり、今後も研修会の改善を図りつつ開催を継続していく所存です。

〔研修会概要〕

【講 話】 東海第二発電所の近況について（東海発電所の概要）

【実習①】 シミュレーターによる運転体験

【見 学】 東海第二発電所フルスコープシミュレータ

【実習②】 身の周りの放射線測定体験

【研修風景】



講話「東海第二発電所の近況について」



実習「シミュレーターによる運転体験」



実習「身の周りの放射線測定体験」

○防災講演会の開催

原子力機構核燃料サイクル工学研究所において、3.11を迎えるにあたり、東日本大震災や過去の事故の教訓を風化させないことを目的として、平成27年春季火災予防運動期間の行事の一環として、3月11日、茨城県立消防学校 齋藤 亨 学校長を講師に、「3.11を忘れるな!」と題する防災講演会が、アトムワールド 講堂において開催されました。

講演会は約153名の方々が聴講され、東海ノア協定加盟事業所からは、4事業所から10名の方が参加されました。

講演会では、齋藤校長よりキーワードである3月11日に発生した東日本大震災、アスファルト固化処理施設火災・爆発、福島第1原発事故、そしてそれら事故からの教訓や NuclearBiologicalChemical 共通の放射線教育・訓練の課題などについて説明されました。まとめとして「1. アスファルト固化処理施設火災・爆発の悔しさ、苦労を忘れない! 2. 大震災、大津波に備えた緊張感持続! 3. 日頃から防災関係機関に対する協力を惜しまない! 4. 地元との築き上げた相互信頼関係の維持! 5. NY(9.11)テロも忘れるな!等」と講演会を締めくくられました。なお、講演終了後には、聴講者全員が起立して東日本大震災を追悼し、1分間の黙とうを行いました。



情報等の交換に係る協力活動

○事故、トラブル情報等の交換

原子力事業所安全協力協定に基づき、協定加盟事業所の事故・トラブル情報について、プレス発表された以下の1件の情報提供を協定加盟全事業所に配信を行いました。(対象期間：平成26年9月～平成27年3月)

〈プレス発表された事故、トラブル関連情報〉

事業所	事象発生日	件名
日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター	平成26年 9月11日	材料試験炉（JMTR）第3排水系貯槽（Ⅱ）建屋内の水たまりについて
日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所	平成26年 9月16日	第1工学試験棟での火災の発生について
日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター	平成26年 9月19日	材料試験炉（JMTR）第3排水系貯槽（Ⅱ）建屋内での放射性物質の漏えいに関する報告書（第一報）の提出について（お知らせ）
日本原子力発電（株） 東海・東海第二発電所	平成26年 12月19日	東海第二発電所廃棄物処理建屋3階送風機室（B）における火災の発生について
日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター	平成26年 12月25日	材料試験炉（JMTR）第3排水系貯槽（Ⅱ）建屋内での放射性物質の漏えいに関する報告書（最終報）の提出について（お知らせ）
日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所	平成27年 1月16日	J-PARC・物質・生命科学実験施設（MLF）第2実験ホールにおける火災について
日本原子力発電（株） 東海・東海第二発電所	平成27年 1月23日	東海第二発電所廃棄物処理建屋3階送風機室（B）における火災の発生について（原因・対策）
日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所	平成27年 1月26日	J-PARC・物質・生命科学実験施設（MLF）第2実験ホールにおける火災に関する報告書（第一報）の提出について（お知らせ）
日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所	平成27年 1月28日	第1工学試験棟大実験室における遮断器の火災に関する報告書（最終版）の提出について（お知らせ）
日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所	平成27年 2月19日	J-PARC・物質・生命科学実験施設（MLF）第2実験ホールにおける火災に関する報告書（最終版）の提出等について（お知らせ）
日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター	平成27年 3月10日	材料試験炉（JMTR）第3排水系貯槽（Ⅱ）建屋内での放射性物質の漏えいについて（第三報）の提出について（お知らせ）

○協定加盟事業所総合訓練等の見学会

1) 緊急被ばく医療関連情報連絡会の開催

医療機関、原子力事業所及び緊急搬送関係者間等の緊急被ばく医療に関する相互理解を推進するために開催される緊急被ばく医療関連情報連絡会について、加盟事業所への開催の案内を行い、事業所からの参加者を募り実施しました。

1) 緊急被ばく医療関連情報連絡会

〔開催日〕 平成27年2月23日（月）

〔場所〕 いばらき量子ビーム研究センター

東海村研究交流プラザ

〔内容〕 ①平成26年度緊急被ばく医療に関する活動状況について

②平成27年度緊急被ばく医療に関する年間活動計画（案）について

③講演「突然の放射線災害に直面した地域医師が示す反応とは？」

講師 公立大学法人福島県立医科大学

医学部放射線災害医療学講座

主任教授 長谷川 有史 氏

〔講演会の様子〕



〔参加者〕 協定加盟事業所から9名（7事業所）が参加

☆協定加盟事業所からの事業所紹介

東海ノア通信では、協力協定加盟事業所間の相互理解を図ることを目的に、安全活動への取組状況等について各事業所からの紹介記事を掲載しています。

今号では、「東北大学金属材料研究所附属 量子エネルギー材料科学国際研究センター」からの紹介です。

— ∞ —

『当社の安全活動 状況等について』

三菱マテリアル株式会社
エネルギー事業センター
那珂エネルギー開発研究所

1. はじめに

当社は 1954 年に中央研究所（埼玉県さいたま市）で原子力の研究を開始しました。当研究所は、中央研究所の原子力部門が那珂市（当時、那珂町）に移転する形で 1984 年に設立されました。現在、原子力関係の設計や評価などはエネルギー事業センター（さいたま市）で、核燃料物質や放射性同位元素を用いる試験は当研究所でと役割分担するほか、六ヶ所村や福島市にも事業所を設けています。当研究所では、燃料加工、再処理、廃棄物処理及び廃棄物処分など原子燃料サイクル全般の研究開発を行っています。



2. 当社の行動指針

当社は、関連法令を遵守し、社会的良識に従い健全な企業活動を行うため、1997 年に全社員が遵守・実践すべき最高規範として企業行動指針を定めました。2003 年にはこれを当社グループ全体の最高規範として位置付け、公正な事業活動を通じた会社の持続的発展と企業価値の最大化に努めています。また、この理念の下、『私たちが目指すもの』を言葉で表し、法令遵守、社会貢献、安全優先などの規範を具体的に決めました。これらは当社のホームページ（<http://www.mmc.co.jp>）で公開しています。特に社員が日常的に遵守すべきことは『私たちの行動指針 10 章』としてまとめ、これを記載したカードを全社員が常時携行しています。

3. 安全衛生活動の取組み

全社的な安全衛生活動については、本社に全社ゼロ災推進委員会を置いて各事業所の活動を統轄しています。「安全は全てに優先する」を合言葉とし、安全確保を最優先事項として位置付けて、完全ゼロ災のための活動を推進しています。

当研究所においては、年初に年間安全衛生推進計画を定めて安全衛生活動を確実に推進しています。この計画では、法令や協定に基づく活動はもとより、以下のような様々な自主的活動の実施を定めています。

- (1) 近年の全体目標は「完全無災害」、実行スローガンは「ルール遵守と危険予知、全員参加で完全ゼロ災」です。さらに平成 27 年はサブスローガンとして「気づきと共有を大事にしよう！」を掲げることとしました。職員一人ひとりの安全への感性を高めると共に、さらなる改善に繋がる“気づき”を忌憚なく職場で“共有”できる雰囲気醸成に努めています。

(2) 不安全行為や危険個所の芽を摘むために、所長、産業医、衛生管理者及び安全衛生委員がそれぞれ毎月所内パトロールを行い、指摘事項を安全衛生委員会に報告しています。安全衛生委員会は各職場に改善を指示し、その後も改善が完全に実施されるまでフォローします。



所内パトロール風景

(3) 「事故事例研究会」を毎月定期的を開催しています。出席者は職場ごとに毎回異なったメンバーです。ここでは、原子力産業だけでなく広く一般産業にまで範囲を広げ、事故事例を取り上げて事故の原因と対策を出席者一同が検討します。

(4) 那珂消防署や那珂警察署に協力して頂き、各種の研修や安全衛生講和などを行っています。これらは、安全意識を忘れることなくさらに向上させるため、継続的に実施しています。

(5) 全社活動の一環で事業所相互の安全衛生監査を行い、指摘事項や推奨事項への対応を行います。逆に当所員も他の事業所を監査します。同じ社内であっても異なる事業所の活動を知ることで、危険性を察知する能力や意識が向上します。

4. おわりに

開所以来続けてきた安全活動の成果として、当研究所は30年間無事故無災害を達成しました。今後もこの記録を更新するべく努力して参ります。東海ノア協定加盟事業所及び地元の皆様には、今後ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

☆役員等の変更

安全協力委員会活動推進幹事会〔平成27年1月1日付〕

	(新)	(旧)
幹事長	丸尾 毅 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 保安管理部長	小野寺 淳一 同 左 保安管理部部長

以上

〔編集後記〕

今は春真っ盛り。1月31日から3月8日まで「第7回 那珂のひなまつり」が開催され、また水戸の偕楽園では「第119回 水戸の梅まつり」が、2月20日から3月31日かけて開催されております。開花状況(3月18日現在)は約88%とのことです。さらには、東海村の阿漕ヶ浦運動公園では「第26回 東海さくらまつり」が4月1日から20日まで開催される予定です。原子力業界では、原子力発電所の再稼働が今年中には実現される見通しで、少し明かりがさしてきた状況でもあり、穏やかな春を楽しみましょう。

東海ノア通信の目的である「情報の交換・共有化」を行いながら、皆様の参考となるよう更に充実図っていきたいと考えています。事務局へのご要望等がございましたら、忌憚のないご意見をお寄せください。

水戸梅まつり



(速報偕楽園 HP より転載)

